

繪本豊臣勲功記

五編  
七

遠13  
2209  
47





門へ返13  
2209  
巻47

繪本豊臣勲功記五編卷之七

目錄

明智主從逼憤怒遂叛逆

属 宍 谷 愛 連 秋

先秀不宥守野係却害之

属 龜 山 調 軍

繪本豊臣勲功記五編卷之七





明智光秀謀叛圍本能寺

屬 諸士戦死

右大臣所生害蘭丸戦死

屬 安田捨功

繪本豊臣勲功記五編卷之七

櫻澤堂山 編輯



明智主從通憤怒遂叛逆屬宮愛連秋

君との臣を見ること。糞土の如くさる胸の底亦君を寇讐の如くせん先言  
頗鼻悪るるかな。明智日向守光秀。既に主君の瞋を彼り。密夜司の職を逆  
除られたるのさへ。蘭丸せり。中湧が儼に怒ると  
いごも。是れも。出さ。疎館。けり。光秀が。臣家。明智。馬。今。同。治。右。境。同。十  
郎。左。衛。門。妻。本。主。計。願。四。王。天。但。馬。守。並。河。掃。部。分。村。上。和。泉。守。奥。田。左。衛。門  
尉。三。宅。着。去。清。海。尾。庄。去。清。進。士。作。左。衛。門。候。主人の心を嘆息し怒を會て  
けり。中。原。公。の。源。家。の。末。孫。織。田。家。譜。代。の。長。家。子。も。あ。ら。は。然。る。事。遠  
遭。か。ら。孫。く。非。道。の。所。作。能。令。織。田。家。を。離。る。事。も。不。可。な。る。事。と。い。は。す。る。事。







比度備中國為後詰近日彼國可為出馬依之先  
隊之銘々先自我至彼地可任羽柴筑前守指圖  
者也

天正十年五月廿一日

信長

筒井 順慶

細川與一郎

池田勝三郎

中川瀬兵衛

高山 右近

明智日向守

蜂屋 兵庫

堀 久太郎

一書を記して順達したるに、いふは憤怒を堪ざる明智が居家候と、是  
を説く人又賤なり。昨日までハ明智羽柴と同格ありて、各一方の大將あるに、  
遠次ふらびりて小舟の列ふ連絡、秀吉が指揮せうのよき言語に絶する

洵書なり。浩る恥辱を受かざらん、何ぞ出勢しめざるんや。能令隆意の百  
遭りりとも、所出馬決して之用なりと、聲を放ちて怒りけきども、是秀吉も  
いふむとくなく、奉書を添く廻したり、時は蘭丸廻文の滞りなり、返るを看  
て、腹で明智と不和あり、多しバ、藩子公言、訟さうく、遠遭明智秀吉、中  
國加勢の命、河邑とも、稗選せしめて所奉せし、内心の政企量か、し得と  
所賢慮す、しやふしと、言状を右大臣、後又先帝が事にか、い、若し  
工事を案じたり、青木共、教威儀を整へ、君命條々、後、遠遭中國小  
べしと、命せを奉てそのまふ、明智が館に到りたり、日向此郎、若の權使と、所  
よりえ、これ小事に、あはしと、主従覚然、あきらむ、おあちおと、渡使に、途一、添  
く上座を、侍り、青木共、教威儀を整へ、君命條々、後、遠遭中國小  
出勢せし、れ、武功を、抽んで、斬平、い、る、出雲石見を、揚、え、き、所、後、意、なり、と、遠



此をかりひの外に君命は断れ難有しと思ふのう。我を忘れて突と俯伏し  
 公中の怒氣もたれり頼折を後述は頼顯をせえ来義直の光秀をれば  
 従来君を恨まわらせ。おやせんたやと思ひし罪を公の中に愧謝するせ思に  
 感して落涙する。使節の青木密と見遣その款びの終るまでかからず。所勞はや  
 日向守殿の公一條の君命あり。是下れ存亡極まりぬ。湯と石洗除しなう。楊子不  
 の雲石二國の福敷地を。聖日にも所を在任を。輝祿をぬ。楊子傾地の換  
 呈して龜山坂本の二ヶ城を呈返られよ。命ぞと聆て喜び驚願ひん。皆てや  
 長嶺の満面に怒氣顯まき。見えたる成元秀志を。目注して美公の危を面  
 に出さば。楊俊子沖奉して。本與忠を帰し。う。備勇士大に願う。俺們の控を  
 する如く。龜山坂本の激城を。出雲石見も。換人。言結に絶たる料  
 理有り。雲石二國の款地。し。てい。中。主君の所。に。容ら。び。龜山坂本を。め。し。あ

けら。是。公。君。の。所。を。置。き。地。は。是。信。長。が。我。君。へ。自。殺。を。祈。る。う。強。敵。あり  
 坐。み。か。ら。死。死。し。か。ら。ん。よ。り。快。く。お。が。し。起。り。と。轉。換。し。て。を。初。め。り。光。秀  
 要。時。點。極。と。も。復。又。て。在。る。区。分。突。と。起。舉。て。四。方。を。視。流。し。威。儀。を。整。して。長  
 表。を。向。ひ。汝。悔。他。言。を。る。と。あ。う。れ。先。の。月。甲。が。予。く。信。長。を。何。う。と。揚。我  
 頭。を。お。し。か。し。も。長。家。の。通。を。思。つ。を。殺。次。と。な。れ。氣。辱。を。忍。び。憤。を。養。さ。り  
 公。浩。る。雅。題。を。蒙。る。う。人。の。明。智。の。滅。亡。今。日。唯。今。時。至。る。と。是。非。も。な。れ。今。月  
 下。辭。の。信。長。父。子。上。洛。あり。と。聆。も。時。會。は。其。胸。報。ひ。ま。あ。し。せん。先。龜。山。一。釋  
 起。て。波。城。を。殘。せ。し。股。肱。の。兵。卒。も。言。障。し。夫。を。死。せ。し。針。強。を。強。人。極  
 て。隱。密。た。る。と。後。事。を。う。く。謀。合。せ。意。靜。に。安。土。の。登。城。し。中。國。加。勢。出  
 陣。せ。ん。と。信。長。公。へ。腹。を。乞。安。土。の。城。を。退。出。さ。る。か。山。の。藤。子。來。る。時。既。と。所  
 願。て。城。を。仰。瞻。噫。今。日。す。て。七。奉。月。君。は。城。を。在。と。お。り。ん。と。い。とも。尊。く



視よりしも今こそ最良に道徳たるは公性の心を有し最良策一くつらぬる  
あり。呼ばれり。の安土城やと腰を披りし紙業把出吊時に一首此秋を題く

公志しぬ人志何ともいふべし身をも惜まぬ忠誠をかしまは

道と急いふ。主従階ふ坂本の城に立歸りぬ。此時最良九八信長公の亦前

一と密に言柄し。たてまつる。只今光秀が態をいへる。小謀叛をこおがえぬ。臣

所許を蒙らる。目然し。光秀を斬て弄まう。さへふと思投て見えける。は心

其ハ赤い。つらる。由名と。呪詛身をも。蘭丸極く。公今明智光秀を登城せし

顔色といひ。今朝飯時を疑ひし。はに哺ら。飯を嚙む。みふや。沈吟し。在と

りしが持たる。著を取落した。是と。要時ハ覺え。代長。さう。新まで。心。決。果

はさる。正しく。天下の。一大事を。想起。の。に。い。ら。る。人。光秀。從。來。君。を。恨。ま。る。

らさる。と。屢。く。み。れ。を。許。圖。断。ま。す。は。登。り。し。べ。と。諫。言。せ。た。る。眼。力。ハ

大張智勇の乱子なり。然やど。明智光秀ハ坂本の城に歸着し。城代

明智十平次。光秀の。伯父也。あ。ら。び。に。三。宅。武。部。奥。田。官。内。山。本。對。馬。守。兼。訪。尾

彈守。秋。篠。内。後。介。伊。勢。與。三。木。村。越。三。十。郎。倅。を。呼。集。め。密。に。女。主。の。次

身。を。詰。譚。既。に。謀。叛。と。決。む。した。る。が。各。の。心。底。い。く。人。之。間。に。是。亦。ハ。決。ま。り

金。備。子。信。長。を。怨。む。と。甚。ど。く。は。奉。て。叛。逆。を。勸。め。ら。る。由。名。宛。電。子。小

我。を。誅。する。が。傍。く。坊。主。逆。意。に。叛。國。中。り。ハ。其。心。を。こ。と。渾。り。知。ま。り。時。子

光。秀。指。揮。し。ら。る。中。う。明。智。左。馬。助。同。治。右。衛。門。四。五。天。但。馬。守。並。河。津。助

倅。丹。波。の。老。士。を。付。さ。く。急。に。龜。山。の。城。に。到。り。龜。山。本。山。城。を。強。攻。め。ら。る。中。無。情

ハ。密。に。逆。意。を。宣。所。せ。其。餘。の。軍。小。ハ。出。雲。石。見。に。津。濱。地。へ。赴。く。處。さ。う。

披露して。晦日。ぐ。だ。り。に。悉。く。龜。山。城。へ。軍。勢。を。集。め。ら。る。中。指。揮。を。受。め。る。智

益。河。四。五。天。倅。又。月。廿。四。日。の。三。更。さ。り。に。丹。波。の。國。へ。趣。ひ。し。り。光。秀。ハ。廿。七。日。





豊臣氏五編卷之十一



豊臣氏五編卷之十一

五



三子餘騎を引率して坂本の城をうち獲る。白鳥義成等して都へ入らば西に京

三子餘騎を引率して坂本の城をうち獲る。白鳥義成等して都へ入らば西に京

三子餘騎を引率して坂本の城をうち獲る。白鳥義成等して都へ入らば西に京  
也南へ過りて。倭城の釋迦堂の茶を到り。以て緒士を告ていふ。我の所  
忘預りて。愛宕山へ賽し。今宵ハ通夜して明朝丹波の國へ赴く。魚丸  
ハ汝のいふ事下り。途を急に。疾急山へ奉悉とて。諸士を別きて日向守殿  
肱の武士八九人を伴ひて。愛宕山へ懸渡り。神前を額渡り。丹精を懸して屢  
く行念。備若大望成就する。此ハ才一を授けり。と林園を打り。洞の如く。一香  
かまを免。赤まをく。秋び賤之。中國出勢行けり。小通夜する。とせんとす。し  
徇く。西の房威徳院行旅。終に旅宿せられ。日本寄り。道なれ。百韻に連  
袂を傳ふ。されり。亦も遠院司行旅。八原來連秋の達人。なれば。遠道不堪  
秋なる。経巴法橋。昌叱法橋。心常法師。柔如法師。大后院。宿源。此ハ候と  
て。助發し。たる。其。費。向。小。ハ。

三子餘騎を引率して坂本の城をうち獲る。白鳥義成等して都へ入らば西に京

是の面十句。かり。末の句ハ此ハ略也。會中先秀の句十六韻あり。名残の  
光秀  
行旅  
行澄  
無如  
心前  
昌叱  
宿源  
紹巴  
行旅  
水と浦さる。庭にをり。草  
毛落る。池にをり。れを。櫃とめて  
風を。庭に。多に。おく。不暮  
妻も。おや。種。の。壺。や。た。ぬ。らん  
う。じ。く。袖。も。何。り。あ。け。れ。お。ね  
う。ろ。枯。も。な。り。ぬ。る。も。れ。枕。して  
穿。な。れ。ふ。り。り。燈。籠。の。松。虫  
秋。も。た。た。た。き。方。に。ゆ。り。り  
尾。上。の。物。氣。夕。ぐ。れ。の。そ  
光秀  
行旅  
行澄  
無如  
心前  
昌叱  
宿源  
紹巴  
行旅



心前

色も香も研をさむる花は下

くみぐいを不長用するに

心前 光慶

執筆の光秀の二孫臣東六郎之清行澄  
東下野守常依七代の後胤ふして千景常  
 胤の家族なり新先祖所分郡して東下  
 を賜る依て東下常言と号以野別の秋人なり今地下に秋道の傳ふる事決今より始るは常言を種と  
 宗祖といふ云々同よふ常六年を東野といひ非なり亦一本は清澄を秋胤と号し秋胤を清澄と号す  
 を東通寺して清 かり亦名残の秋名を光慶と記せしハ光秀がむかひもさくごも秋意と  
 澄と号す是非なり  
 斯せしなり。然るにふし翌廿八日再権現へ来詣りし黄金珍器を多く寄附  
 して且吟友にもそれくふ贈財を分與へ何色の目もすく再會せんと祥謝  
 と吉丹波に到りぬ  
後句の時ハ今とある事句は長閑なる所とありハ光秀本姓土岐の四流が苗  
 字は阿事なるをて中ハ今なる類意を軒天下を平治し日海四の附長閑なる  
 所を秋後して秋ハ秋  
 時々秋の附とつてハ  
 光秀不長守野練却害之属龜山調軍

外相と一  
あつたか  
あつたか  
あつたか

晋北桓温枕を撫して嘆くといふ。男子芳を百世に流るると結をんハ亦貞を  
 萬年子遺さすしと六分統養は日向古が志不怠然わふし明智光秀ハ其  
 丹波別龜山の嶽ふ着しやるが子息十景清光慶遠頃瘡疾をさぐり熱氣  
 積が如くして發言などいひ人事を覺えんハ光秀殊に不便おありハ張彼  
 郎之清惟恒子命じて醫療をさすし一梅かづら着病させたり  
光秀の女曰  
 男あり長子ハ  
 俄田後乃の子七景清澄の室なり其次に知川着孝の子と一丹忠興の室なり  
 其次ハ十景清光慶なり其次に自然丸なり其次に九景の女子其次の事九とよびてハ  
 田那外相の住人宇野豊後守之明とよ者あり  
山平保津日野村  
 性實殊ふ  
 少之千石を領せ  
 康直にして仁義の外子通せりさる高士なりしが光秀龜山に帰るの叙  
 外相は使者を走らせ對面したふ言詰む然るに豊後守を死に候なり脱に  
 腫痛放養して痛若くならむと堪がとられども乃ざんハ練ふまうと伴夫らうふ  
 ぬ二人を跟従へいとがうく行着たれば光秀執ひ迎請宴を設けて酔く



款待し。次子腕の腫を慰務りて。后近士を遠ざけ身を修せ。低く其  
 と言渡るや。今我命旦夕に過ぎ。是下これ成部助のや。いかにと  
 問應答。其後ち聆を以て。威儀を整ひ。今當國の城を治め。天下に名將と  
 する疾が。いさる事のおまづと。命を捨る道や。何の察するとも。思ふは是  
 謀及の政企す。まはかんと。心を當まき日向守。恨の始終を治禪に  
 ぞ。宇野。懇々と聆る。其聲懐の理が。傾地の素是。楊殿なり。天を  
 する夏もあり。赤霖する秋も。何ふ人なる者の愛憎。平生に未去事と。懐  
 さ。まへへあへく。唯揚を。ぬ昔の羞と。思ひわさ。め秋毫も。信長公を恨  
 への。日向殿の。自己。一個の勇智を。遠國等。平治と。思ひ  
 かねども。其いかに。ひる。夫。良。道。事。其。身。を。殺。して。君。に。仕。ふ。  
 君。も。これ。を。賞。する。小。國。郡。を。功。又。酬。る。力。を。得。一。勞。成。盡。し。其。

報を。ま。功。を。呈。し。事。を。積。で。其。責。を。求。め。と。あ。七。故。人。も。禰。り。努。く。不  
 忠。又。を。成。傾。け。未。世。に。悪。名。を。残。し。あ。ふ。恒。の。英。智。に。似。も。や。ぬ。所。費。謀  
 こと。其。身。を。れ。太。守。と。者。と。断。金。の。文。を。と。つ。とも。不。受。の。道。の。誦。ひ。じ  
 と。憚。色。を。く。練。め。る。に。と。光。秀。も。其。理。を。服。し。強。に。抱。理。の。体。指。を。得  
 と。深。思。し。ま。う。と。と。と。と。噫。て。其。後。ハ。別。ま。さ。り。得。の。光。秀。宇。野。小。説。れ  
 て。西。此。勝。り。油。の。如。此。汗。を。流。く。大。息。嘘。吹。て。在。る。と。あ。ら。ハ。明。智。持。十。郎  
 光。景。山。本。の。比。由。傍。地。小。梅。一。茶。室。より。小。砲。を。提。は。窺。出。光。秀。が。不。以  
 投。身。我。今。宇。野。が。有。を。の。返。答。い。つ。あ。あ。ある。と。立。聆。せ。し。は。送。さ。る。高。懐。の  
 洞。小。一。個。に。も。せ。し。密。事。を。候。て。送。さ。る。成。其。未。に。帰。さ。せ。る。尊。慮。の  
 意。意。決。り。と。言。を。成。光。秀。莞。尔。と。笑。ふ。く。あ。を。知。り。憶。ら。れ。た。是。蹟。返  
 竟。て。鼓。手。提。との。洞。は。嚙。口。光。と。て。腹。口。は。人。伴。ひ。治。も。通。ひ。熟。た。る。回。望。徑



宇野豊後守



うの ぎんごのき  
 宇野豊後守  
 光秀の謀叛を  
 察破して  
 諫むる詞  
 裂竹の像一



周を厭えて一類に走る諸の弓と強矢よりも疾く趨着て聲をも吸ひ一  
 敷にあらんとせしが渠も名士鄙怯の傲もあつたがごとく素知らぬ態にて行過  
 るは光達なりたるを後者これ光秀が我として殺さるんとてや悟り  
 喃待り其許に推しあつたと呼囀られ發するせしが當言然ぬらうと  
 せり六开も又執そとを倚せ宇野身構ひ伺むともむらう知ざるを喃充  
 秀が謀叛に加控せびその密謀此囀りより他へ漏れやせんうと怖きて殺  
 刺に來るをあらん。喃も武門は生流託す。非命不死と云ふ不縁也。然と  
 て汝も主命奉るは是勞せし功に。初割させんと謂もそては惟又府脱と  
 肝刺斬まは孫十郎の嗟嘆しつ。首控落して立降りを後者か最期の始終  
 を告る。踐踏て日向守落涙して七嘆じたる其に周さ。織田右大臣信長公の同月廿  
 九日とりて。東山丸。同房丸。同力丸。湯淺甚助。金原茂入。秋保と。二百餘人を俟

奉りしむ。上洛ありし。四條西の洞院 本能寺元は四條坊門西の洞院不在がけんのウチ  
 所旅館ありし。中國の羽柴へ加勢を諸國の武士へ指揮し。備中  
 將信忠卿ハ亦最新大布。毛利新助。菅原九右衛門。福高。平八郎  
 倅。又百餘人を率從し。二条の櫓に入せり。信長公の所末子。源三郎。信長ハ津  
 田又十郎。同助七倅と惜し。之子餘務に。妙覺寺に寄居せし。緒持の泰  
 向と相等々。呼慮りしや。信長公天下の武門は將とて。子行此重臣。津者  
 ながら。僅二百餘人なり。寺院小狭痛し。身入穢。治世といふとも危き小場。て我  
 の討ふおのくや。是禍蕭牆の内。ふ起るは知らざる。多七。疎忽りたり。終  
 始なり。然わど小曉。六月末の朔日。光秀諸士を召集。門々の名を連呼  
 て。得ハ明智。長馬之助。光俊。同十右衛門。光親。光秀が。同派石橋。門光。名。妻。末。主  
 計正範。賢。光秀が妻。と。宅名。多。傍。桐。朝。深。尾。庄。名。傍。後。朝。は二人ハ光秀に面縛  
 照子の才也。



明石城を以て益明智孫十郎光家、母夜内義分、利三、  
 其後光秀に勝つ。曰く、天但馬守政孝、福和山の村上和泉守行重、並門掃部少秀、國  
 貞、田宮内一食、池田敏那輝秀、三枝三左衛門兼顯、安田地名、清國次、比田常刀  
 則家、進士六郎忠夫、貞則、尾石與三右氏、松田右兵衛左衛門、政親、皆田原藩つ  
 勝定、海を殺して、江戸方面の諸將達列を撃つて、座席に着。响も光秀亮  
 に響ひ、乃、弟、ため、小、各、達、二、命、せり、七、湯、る、あ、う、う、子、人、バ、速、子、首、首、せ、列、て、前  
 快、謀、殺、の、根、を、断、り、と、言、發、る、小、列、座、の、個、々、息、過、ら、せ、つ、個、々、遠、眺、明  
 智、左、馬、助、席、の、上、座、ふ、あ、り、け、る、が、廳、中、を、傍、と、視、流、し、て、各、こ、い、ま、と、言、發、言、さ  
 せ、服、不、振、の、知、ま、が、と、な、れ、ど、唯、苟、も、時、有、氏、の、血、脈、は、流、る、を、り、刺、や、若、を  
 り、殺、し、つ、る、若、惡、も、と、も、扶、助、さ、る、孫、殺、さ、し、左、馬、助、ふ、お、い、く、ハ、噴、ま、命、に、後  
 へ、あ、り、と、念、着、で、言、發、な、れ、を、其、餘、と、も、多、年、の、恩、顧、を、我、に、報、た、る、個、々

されば、是、口、同、般、に、主、命、を、遠、背、さ、す、と、斜、たり、る。光、秀、亮、不、執、儀、を、し、  
 床、に、置、た、る、箇、中、より、年、主、を、取、出、光、俊、と、て、あ、ま、成、續、し、小、列、座、破、く、は、  
 姓名、を、書、記、し、年、主、に、傳、て、擧、信、を、し、我、盟、を、固、く、結、び、な、れ、光、秀、亮、若、び、欣、據、  
 を、軌、座、中、央、に、座、し、て、言、し、る、中、う、唯、朝、會、は、織、田、に、仕、官、し、今、こ、到、り、て  
 十、有、七、年、永、禄、十、年、より、天、長、十、年、の、列、子、加、さ、る、者、を、非、道、の、お、擲、を、れ、た、り、  
 西、國、下、向、れ、加、勢、た、る、命、を、下、し、龜、山、坂、本、の、居、城、を、奪、除、唯、自、滅、せ、せ、ん  
 こと、を、お、れ、し、倭、て、休、と、て、代、將、び、大、事、を、憶、起、し、を、り、と、怒、り、る、色、を、面、相、に  
 顯、し、怒、氣、殺、然、と、言、發、る、に、列、座、備、れ、も、憤、懣、を、な、す、實、小、河、道、理、に、こ  
 と、お、し、を、し、や、費、多、し、と、勅、む、る、お、ど、隠、岐、收、惟、恒、ふ、お、百、餘、人、を、誅、て、嫡、子、光、慶、  
 せ、着、病、な、ら、ず、龜、山、の、城、を、お、置、中、國、費、向、の、組、兵、と、と、披露、し、同、日、由、此  
 上、割、能、生、烟、城、下、に、あり、今、ハ、に、推、出、し、て、水、色、に、括、梗、の、枝、を、印、た、る、大、旗、を、懸、門



多く雙走はとよ白紙の紙子標の馬標を榎軍兵せりて花後中と三浦ふ  
 ぶたの領伍これ一隊ハ明智左馬助克俊を大将とし四王天組する村と和  
 泉守妻本を村領之宅武郡領之子七百餘騎本道を経て大舟の坂を  
 過り桂の里を越て河津と一隊の大將ハ明智左馬助克俊を大将とし河津と和  
 泉守妻本を村領之宅武郡領之子七百餘騎本道を経て大舟の坂を  
 過り唐櫃越しく松尾山田村を北通り本陣をく連合さんとす諸徳大將明  
 智日向守克秀ハ同前十部を率領し志保山城守同友之逆飯坊花澤等女取  
 内務今奥田宮内之枝之左衛門傳之子餘人と率領し後陣を行列て西の  
 下刻に保津の驛より山中越して水尾より出る是ハ克秀率領して河津に  
 至殺けしる尾崎の路を凌ぎて衣笠山の麓ある地蔵院より北陣せん時に  
 明智が諸軍勢之の乃軍をむとしく新王中國費向するものありて搦

一秋並山  
 大月山と平  
 野の村の事

唐路へこそ趣くなると因今上流く日六いかる所と訊録なる其際の大  
 將偽て諸軍よ若る信長公の命せふより略程ハ不順なれども遠軍の洞  
 谷を京都ふおいく河原下たさむひのふより都へ参入せらるりつと言  
 へども小を諸軍勢実小然こもありぬべしと何かかく終夜人馬の行方を  
 急がせ侍る京都をく七純よりぬ

明智光秀謀叛圍本能寺屬諸士戦死

能仁滅に跡をて戒て宣そく願志の害ハ諸の善法を破中と至要月つとも是を  
 るか君成失人も瞋に起る臣と忘るも志小犯る然ハ明智日向守克秀ハ系  
 都野天の地ふより小栗村人馬に息を休せ兵糧を喫せ衣具を織こせ衣  
 秀之のわく諸隊に指揮し秋ハ二條本能寺と二条の城にあり各懸く攻  
 撃(急)勢く躊躇はくべと最殿に觸るる程小此時始て總軍勢謀叛の出軍あり



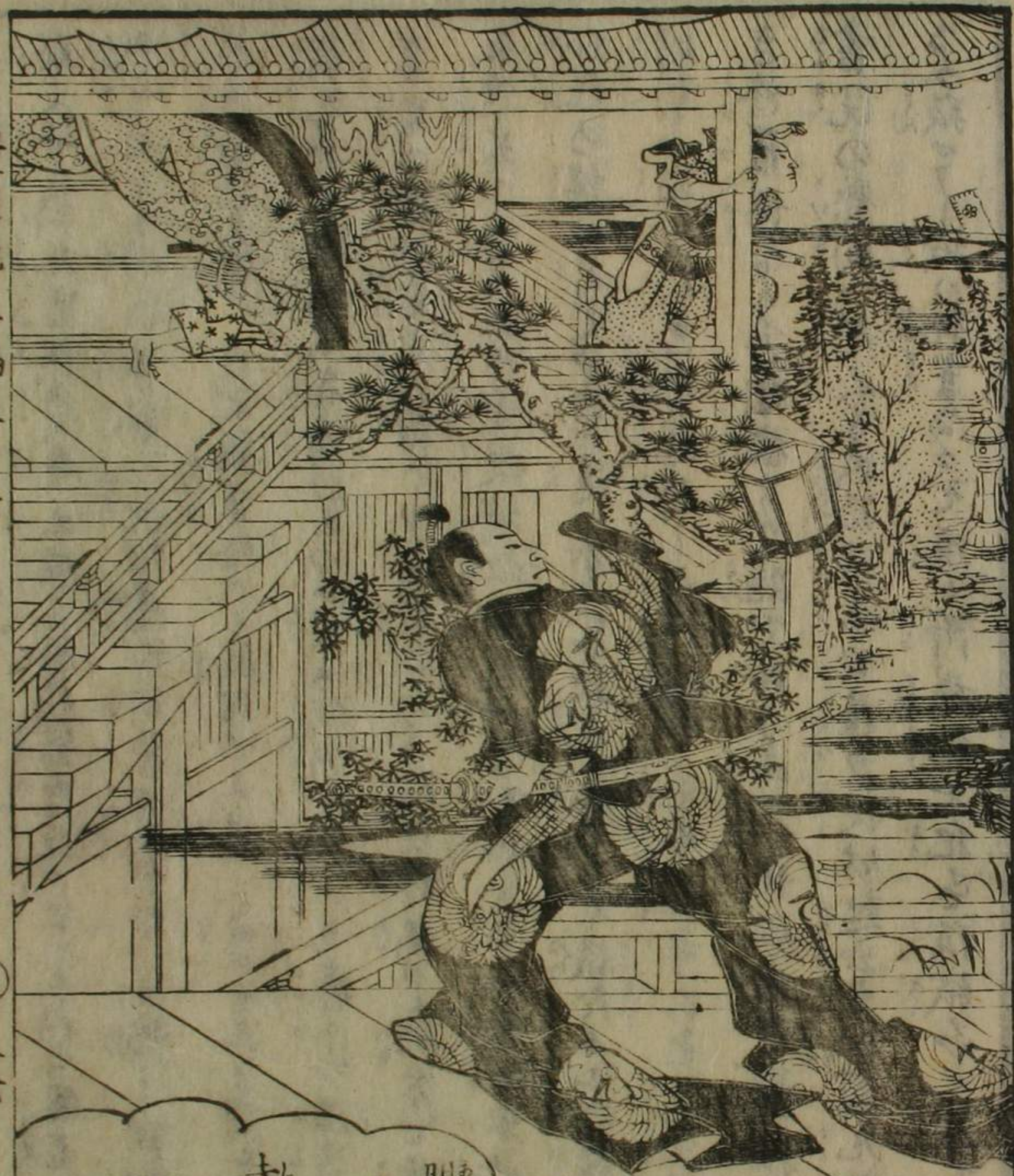




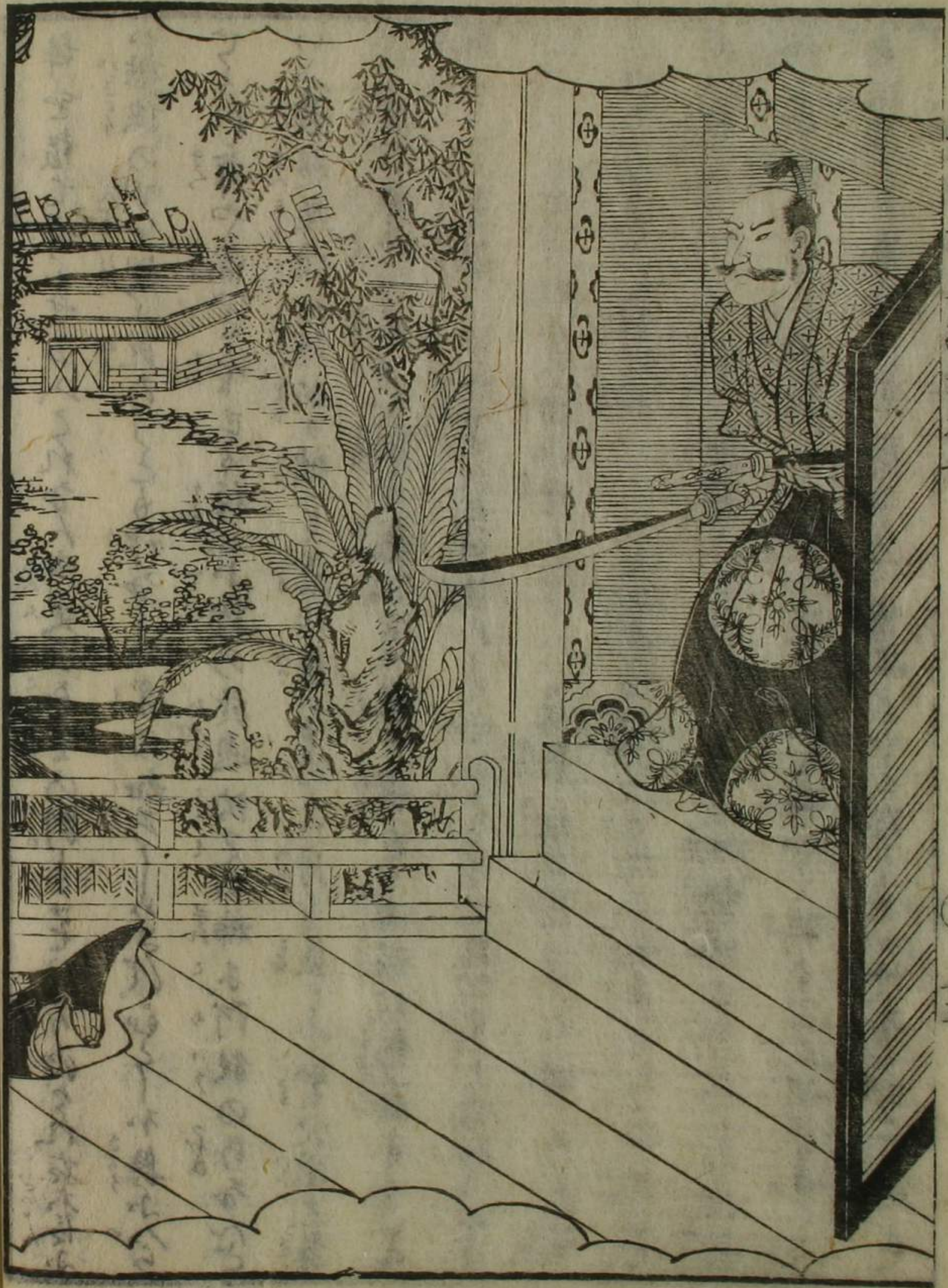
之和まとも。借其萌あるが枝小狭くまの更にきて。最個じく脱之起望れば  
 六月二日あるま。まご條の夫いするかふる。宮の央とおわく。此刻願明智を後  
 万七百有餘人之隊小分撥て。洛中に礼入をす。川本林寺へ向ふる。明智左馬  
 助光俊二千七百餘人。二条の城へ。洛を安んず。光忠。四千餘人を二隊に分て。妙覺  
 寺をも圍せたり。大將明智光秀。三條堀川の南に。方は。三千餘人を八列小  
 して。本陣を安布。諸司代村井長つるが。堀川の邸を後圍に。其外大津  
 山科。宇治。伏見。淀。唐橋。八瀬。鞍馬。香ヶ丘。かんの。通途一帯を領て。五百二  
 百餘の埋伏をさうめ。然して。軍強く。本林寺を攻撃し。しる。奉破竹の依  
 一。然れ。不右大臣信長公。曰。條本林寺。小所在陣か。せ。れ。嫡子中將信  
 忠。御あ。び。源三右衛門長卿。六初の所禮して。本林寺に投せられ。所父  
 子の。あ。最。睦。く。所。宴。も。も。く。盛。興。あ。て。甲。辰。の。あ。る。ま。せ。斬。断。され。別

穉を頼て。帰る。せ。あ。ふ。これ。あ。ん。所。父。子。今。生。の。別。と。こ。を。い。なり。に。れ。右。太。右。不  
 の。懸。狼。の。咽。を。覗。ふ。仇。あり。とも。神。あ。ら。ぬ。弟。の。知。ろ。し。め。さ。げ。む。く。不。興。ふ。入。ら  
 せ。られ。舞。や。篠。と。令。さ。る。程。よ。小。野。の。於。通。伏。見。の。稀。子。阿。能。の。馬。を。ん。と  
 づ。最。終。極。雅。の。陪。姑。が。袂。を。梁。の。塵。い。との。え。月。も。蓋。て。や。雲。に。隠。ま。さ。る  
 へ。ば。燈。に。放。花。も。屯。香。を。閉。ま。萎。む。る。絶。え。愛。ま。る。曲。洞。に。動。盃。ま。る。こと  
 時。久。く。生。涯。りの。酒。宴。に。世。我。飲。尽。と。今。昔。を。る。それ。を。虫。を。や。知。り。ぬ。く  
 人。飽。も。て。醉。に。耽。む。ひ。丑。の。央。と。あ。り。ふ。こ。後。翠。帳。を。寒。け。さ。色。涼。く。じ。く。関  
 又。投。り。答。考。け。食。に。卧。し。身。を。珊瑚。を。敷。く。手。枕。を。若。魚。も。知。く。を。眠。らせ  
 ぬ。ふ。蘭。丸。を。ん。どの。個。々の。亜。廳。子。との。の。ほ。く。る。が。既。黎。明。子。を。た。こ。る。信。長  
 何。も。も。駭。さ。く。ん。葛。然。と。して。咽。を。覺。し。枕。を。抛。け。く。聆。り。ん。が。大地。に。轟。く。人  
 馬。の。聲。あ。ま。尋。常。の。軍。勢。を。く。げ。意。怖。し。や。と思。し。る。傳。惟。く。あ。こ。と。唯。ま





明勢  
本能寺を  
闘  
寺中  
おわひ  
驚動  
十

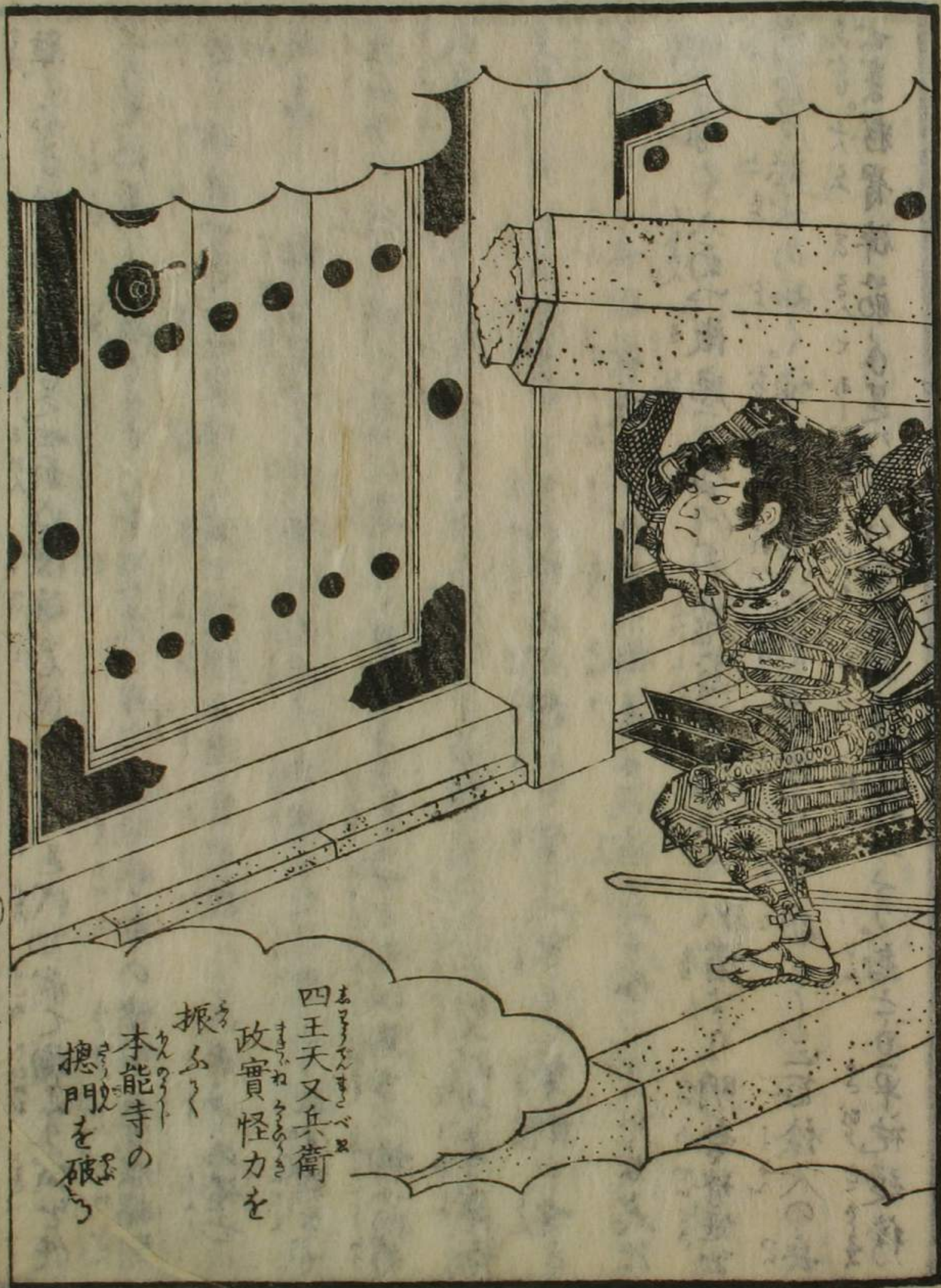




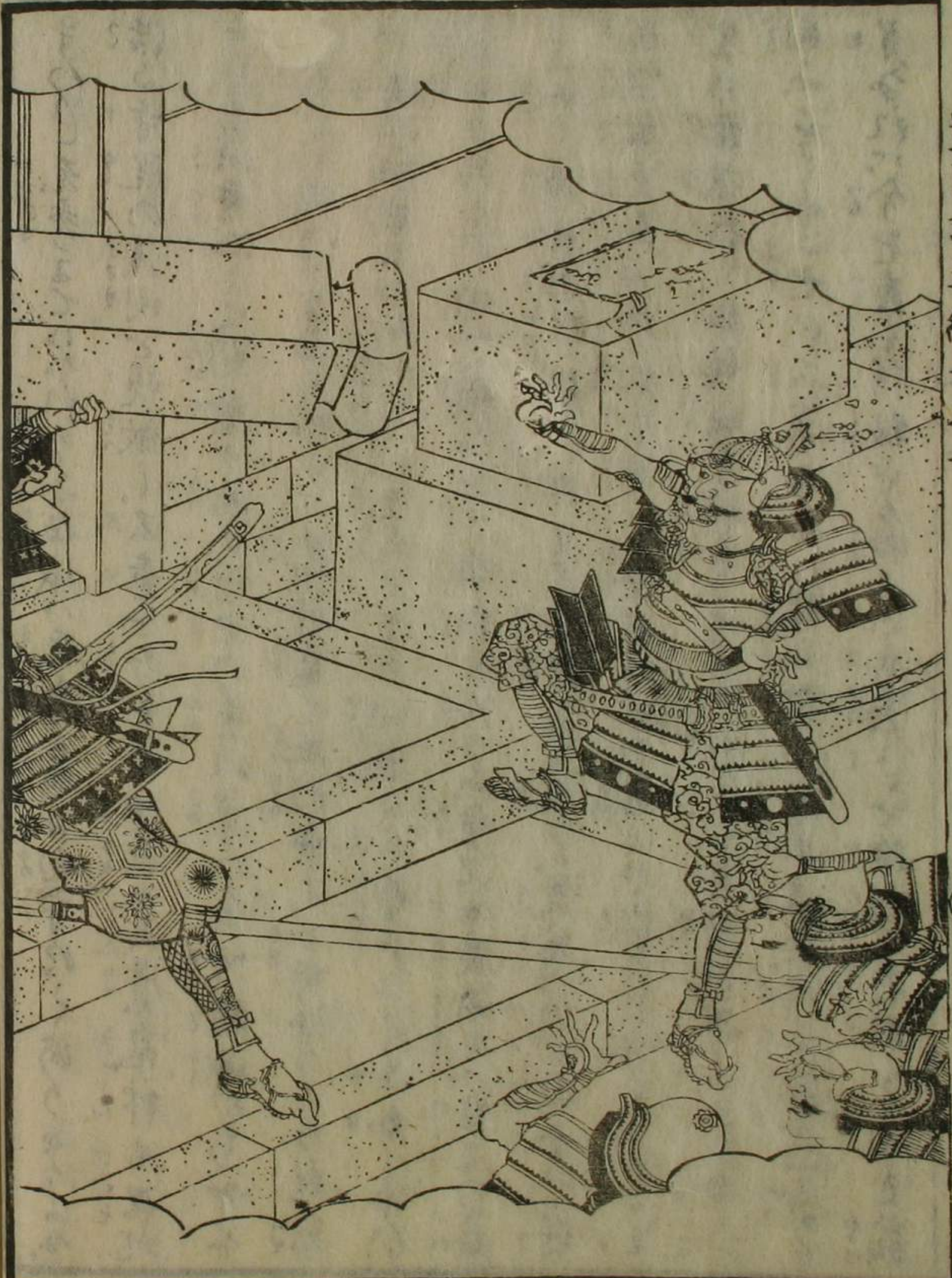
聲の下茵丸宮松愛平之個これに宿直はまつりぬと言呈れ右大臣  
 阿所紅く夥の軍勢此地に當て進ると覺ゆ。ゆく憚りた緯をくばや  
 早隆をくまりくるぞ。執事あつる初作せよ。費一鷹もたつらるに。蔵の  
 茵丸お刀推執望各續けといふ候も柄燭を照して座下を並出中堂なり  
 角の楹れ氣走に届くまを材のあらたけ舒揚し彼方を暗と視彌せ  
 を進来る勢の三四千提燈松明天地を照やさ。この際百歩此外は  
 正冠の旗をえて中ま。遠なる水色の白く抜たる土波拵搜捕を  
 明智が叛したま。出腸断しや朽臆や遠本能寺を茵丸が毆死まべ  
 と修羅場なりと欄檻より跳で却り。正門地に真行敷一柱後人ま  
 書院の懸間へ早くも大羽信長公薙刀提は起出まひ茵丸敵を徹目と  
 る。叛せし城の執事あつるぞ。唯く所旅館を犯ま叛城を預て言状は

まつり先秀まていひなれ。み小叛城の先秀と名日向守にまつりくる。あ  
 浩る寺院の淺間を視徹し。不意を打ま。信長が天魔鬼神も畏れ  
 ざりしが此寺おして明智が為小現世の養れ覺人といひ朽臆やちり  
 やおさの道とまあもあ。一茶村薙て脱到魚。小時なりとも結防  
 は。及び城取る壯士輩と九天までも响彌る。大音声あま下知しひ  
 薙刀うちを不度懸る。弓推執て待中。中にも表茵丸ハ須又の暴  
 たる如く障紙画戸敲閉。脚も七板席を鳴し。直宿の門に起合ひ一逆  
 城明智先秀が所前際障く撃を投たるを防はや御家いと守りく十文  
 字の鎧推拵て極類道く遠出る。あまと全しく寺中の軍士二百餘人  
 同ふ。まもや一世の大事ありと。龍奴駿平にまをせ。從軍恩義を氣く  
 分なれ。今ぞ愈々復報する時よと。兵着るを推把て芒鞋く向を





四王天又兵衛  
 政實怪力を  
 振ふく  
 本能寺の  
 惣門を破る





脛のまほ標揚赤洗足四面の練礮。ん戦のねは是代を求て踰より。喊を此  
くつて活蒐し。鏡すくくそ見えよとれ。這响明智の諸軍勢。礮牆側  
近く推進せり。一吐に突と喊を噴。礮小撞着。素投人とい。寺中の備士ハ  
投せんと。鎗羅刀あく破拂ひ。襦袢ひ。命惜まを防戦するに。途をも  
左右あく破り得。素に遠く見え。うるふ。四馬也。但馬也。嫡子同苗  
又も清政實。享年積。里て十九歳なりとい。とも。大カを雙れ。少年軍を  
まも。門の傍ふ標立せし。七尺許の戒壇石を。掌ふ。強して撃倒し。呼と  
むかりに。弓長期長。披て。門の扉ハ擲着。まの。織。扉もあ。うらた。白。足。此  
擲の像く八面。激塵と。か。く。花。あ。う。あ。ま。は。着。より。明。智。勢。煙。を  
断た。怒水の如く。喚叫で。乱。投。る。月。六。額。く。覚。醒。せ。し。三。百。餘。人。の。兵  
士。ま。彩。骨。碎。筋。も。是。の。物。も。命。も。惜。ま。を。殺。さ。う。る。怒。も。單。絶。疑。傍

のま身ハ能け。是と増。擲。が。純。車。に。向。く。意。味。し。て。危。急。あ。う。あ。と。い。ふ。を。う。し。  
怒る。敵。の。只。額。も。右。大。臣。を。撃。つ。と。そ。ま。ら。ん。と。遠。方。の。虚。堂。那。方。の。深。門  
を。防。を。破。り。て。鎗。の。り。経。ぬ。け。洞。極。を。く。進。ま。る。大。將。既。と。驚。く。急。馳  
の後。あ。る。白。衫。も。曙。星。の。傍。を。躍。越。し。床。の。先。末。を。近。く。解。去。由。本。割。の  
大。弓。の。弱。を。把。り。極。畢。近。進。致。せ。し。つ。け。と。幕。窓。の。陰。より。射。出。し。ま。し  
に。矢。の。ま。う。と。今。く。曉。中。の。絲。を。敵。と。か。わ。も。憎。脆。遠。面。那。背。の。着。を。移。り。大。將  
あ。ふ。あ。も。を。と。ん。秋。毫。知。り。て。明。智。の。兵。士。一。度。以。突。と。絶。る。新。と。つ。る  
より。信。長。公。雙。の。眼。を。敵。之。暗。に。板。城。光。秀。の。つ。く。み。あ。る。ま。ま。殺。る。大。逆  
馬。天。將。お。り。ひ。あ。く。せ。ん。と。天。地。も。裂。る。む。く。りの。聲。も。て。罵。り。の。ま。高。極。勢。  
毛。虎。も。魂。人。ぐ。魂。ま。を。さ。る。張。龍。も。怖。く。換。ら。る。り。の。その。威。勢。も。や。撃  
目。々。人。選。こ。い。ち。に。七。八。段。躍。歩。して。ぞ。敵。う。ら。る。遠。隊。の。大。將。明。智。光



後この不行を那方より観て遂に自軍の奉止する。信長公と看と  
 てまつるを樓絶とも。改たてまつるごうしふ。選こくやある進めしと。  
 声を限りふ白旗うち揮。烈然として指揮するあぞ。これら馳こり  
 魁隊の勇士藁地甚九糸。木村治郎右衛門。在河全右衛門。曰。又を  
 信俊。三百餘人。鉦鉦をうて突投と。信長公に被りて。遂に海士面  
 八幡。豊後地。切生。星切生。子當。経せふ。前を捲。向當。門當。さへん。  
 羽响するよく射すふ不。魁隊の款十務をうり。象。暴外に射強。  
 虎矢。一校もあがりたる。備。在。伴。敵。を。速。定。せ。矢。代。務。助。村。田。若。者。  
 伴。在。岸。右。衛。門。周。正。林。沖。健。児。六。彦。市。注。六。新。六。友。八。友。九。糸。約。若。虎。  
 若。尾。後。六。梅。蘭。丸。刃。九。房。丸。飯。門。宮。松。小。門。愛。平。金。藏。藏。入。魚。佐。庄。  
 七。狩。野。又。九。糸。今。川。孫。治。海。田。右。衛。門。落。合。小。八。糸。修。友。彦。六。久。利。

松田田沼を率。拍系。鍋丸。祖父。以。孫。丸。大。塚。孫。忠。信。六。十。餘。人。を。力。を。  
 暴。風。を。捲。揚。る。あ。ま。は。餘。節。間。と。は。く。る。も。あ。り。面。必。不。肯。上。踏。投。と。若。者。  
 一。わ。ら。る。の。時。に。臣。死。を。と。り。あ。る。ふ。是。ハ。累。代。重。恩。の。主。君。我。死。の。所。  
 供。を。れ。を。惟。う。若。者。子。統。せ。ざ。る。人。也。斬。る。も。柳。も。殊。も。せ。び。身。命。せ。り。て。  
 塵。埃。の。像。く。我。と。重。ん。む。る。蟬。響。石。子。齊。く。群。投。款。を。入。配。と。務。を。  
 火。ふ。る。し。釵。脊。を。削。り。汗。を。流。し。て。流。る。鮮。血。の。白。衫。を。紅。ふ。深。故。怒。声。を。  
 混。む。る。右。刀。顔。の。輝。憲。の。石。上。城。千。把。万。奔。ま。る。が。像。く。激。然。と。して。我。を。  
 か。ゆ。ふ。も。矢。代。務。助。ハ。明。智。孫。十。郎。以。探。合。大。水。を。ち。れ。と。殺。劇。を。遠。務。助。  
 ハ。莫。列。矢。代。の。臣。人。を。り。し。か。馬。形。の。遠。者。を。り。たる。也。近。來。大。臣。の。唱。ふ。  
 急。し。て。遠。遭。の。供。奉。に。加。え。り。し。れ。ば。替。代。の。士。ふ。い。り。し。れ。ば。義。を。勵。し。  
 ぶ。す。る。勇。士。の。執。氣。一。足。も。あ。と。一。退。づ。あ。り。因。盡。骨。の。蘇。も。あ。る。を。是。暴。を。





豊臣記 五巻 第七



本能寺裡  
織田家の  
諸勇士戦死す  
矢代庄助  
伴太郎左門  
村田吉吾  
伴正林

豊臣記 五巻 第七

七



あきて若我たるに。伴左衛門右衛門村田右衛門作左衛門。矢代刀緒は他人に英あり。我死するに及ぶなり。適あくと呼れども。耳ふも更に聆言も。踏投く孫十郎。鎧の絶え三天をり。拂斬ふ吹て落し先や接柱人と巨壁をむらけ。英雄を頼とむさくんで。接合柱合力争を。遠胸付を希右湯つひ藁地甚九郎と我ひるる。矢代勝助を帮扶人と。藁地が斬投太刀絶を右方へ。跛却扛續望。走り進て孫十郎が。頼より肩へけ。八九寸やと頼割たり。藁地も續より。傍て走進伴左衛門より。腰の下まで。袈裟拭撲様以撃放た。矢代勝助遠圍ふ。来て孫十郎を。臂坐し跪外し。太刀取揚て斬る胸。孫十郎も。是に方ら。相殴ふ。勝助を。臂面強く割着られて。雙方共々。頰ぶらり。これが。常後。伴正林。四日。又去。清と。乱殺せ。太刀も刀をうち。おれら。是。終に。段を。死たる。左方に。村田右衛門。若ら。じ

その。懐激突。然と。こと。明智の。猛兵。破竹の。像く。百裂。子。刺。る。わ。ど。其。身。も。輪。の。如。く。に。り。て。立。疎。ふ。死。す。り。い。哀。甚。と。い。ふ。も。あ。ら。う。か。是。又。手。遠。子。又。信。長。公。に。應。渡。ふ。倉。松。秀。九。陽。後。甚。也。中。尾。源。三。郎。の。三。人。坊。舎。に。旅。宿。し。たる。遠。渡。動。を。聆。す。り。も。遣。は。は。被。一。類。ふ。章。野。天。の。像。く。馳。奔。り。若。の。安。危。お。や。ほ。ろ。ろ。な。れ。ば。寺。中。一。投。ら。ん。と。い。ふ。事。も。明。智。の。軍。勢。潮。の。如。く。逆。つ。逆。つ。接。合。た。る。也。急。些。も。肉。へ。入。ら。ず。は。り。く。胸。に。大。將。左。馬。助。元。俊。白。統。ら。ち。り。鞍。頼。子。突。起。騰。り。大。音。聲。に。指。揮。せ。ら。す。く。呀。言。功。を。死。兵。者。を。信。長。公。に。矢。を。射。さ。さ。る。か。列。心。く。進。て。又。合。せ。る。遠。境。甲。子。在。倉。松。之。の。元。満。ま。と。も。多。の。寨。の。如。く。増。て。や。籠。り。ぬ。事。も。我。等。者。何。量。の。事。も。あ。る。進。め。く。こ。呼。ぶ。事。も。無。し。也。賊。回。家。の。三。士。小。倉。陽。渡。中。尾。俊。外。面。に。在。て。は。是。淺。輪。備。を。若。以。ハ。急。か。く。防。範。し。ら。ん。と。賞。え



たり、遠家の主將ハ明智左馬助先遣するも近郷て利殺入ノ勇猛ト  
 一〇倍ノ十倍して、柳橋を顕し、龍崎江ノ三人六臂ノ雙刀歩槍リ、先遣目的  
 て破る、蒐る、誠、左馬助が従軍者六十餘人、右、城、満て、不、後、左、右、より  
 推提、細、槍、越、此、揚、よ、と、柳、起、る、城、東、西、の、勇、も、も、を、さ、る、を、右、天、子、押、し、も、終  
 之、の、首、ハ、放、落、く、四、の、み、つ、子、越、の、像、く、此、精、進、左、天、子、推、進、ハ、六、七、病、一、度  
 此、同、く、編、出、鏡、の、鏡、突、と、曼、哩、と、斬、落、し、突、と、さ、る、人、也、兵、十、足、行、勝、と  
 之、小、次、倒、と、款、と、一、首、も、六、逃、も、許、さ、入、進、も、故、さ、尺、高、依、能、横、さ、る、ハ  
 かく、當、る、小、信、せ、て、撃、つ、と、小、瞬、と、る、後、も、中、と、す、て、十、七、八、病、を、盡、し、  
 小、血、波、乃、々、と、斬、連、絲、と、り、款、之、これ、は、慢、怖、也、つ、竹、下、款、も、や、自、軍  
 小、や、と、遠、忙、之、礼、物、さ、る、を、左、馬、助、大、不、忍、り、其、浦、安、田、ハ、在、合、ぬ、右、川、山  
 本、出、合、て、快、樂、奴、衆、を、殺、止、よ、と、頻、に、指、揮、さ、る、一、々、の、如、く、二、王、曰、夫、と、呼

れ、る、安、田、作、左、衛、門、清、國、次、亦、一、番、に、進、出、那、方、を、信、と、認、て、也、是、ハ、湯、淺、甚  
 助、中、尾、源、を、弟、小、倉、松、秀、丸、の、二、勇、士、屯、集、自、軍、を、榴、麻、の、像、く、此、列  
 起、難、起、一、條、の、血、路、を、殺、奔、し、て、一、文、字、も、左、馬、助、が、旗、本、真、近、く、斬、殺、さ  
 り、憎、さ、渠、奴、像、が、所、行、也、先、東、西、看、せ、ん、と、安、田、國、次、長、城、か、つ、棟、髓、の  
 像、く、逃、奔、り、て、中、尾、源、を、弟、小、倉、松、秀、丸、の、二、勇、士、屯、集、自、軍、を、榴、麻、の、像、く、此、列  
 の、操、様、を、あ、し、て、小、刻、に、柳、開、ひ、し、が、我、疲、ま、し、源、を、弟、小、倉、松、秀、丸、の、二、勇、士、屯、集、自、軍、を、榴、麻、の、像、く、此、列  
 か、柳、出、ま、と、威、を、受、損、し、千、段、板、より、肯、金、も、只、一、突、小、柳、徹、され、哀、甚、其、後  
 息、絶、たり、安、田、方、ら、び、其、浦、右、川、山、本、依、激、水、烈、火、の、勇、を、奮、奮、と、湯、淺、小  
 倉、を、あ、し、小、捕、柳、粉、小、倉、と、接、し、つ、と、も、決、死、の、甚、助、松、秀、丸、明、智、が、勇、士、  
 此、怖、る、あ、し、と、入、逆、織、布、撥、の、氣、絨、也、天、珠、か、り、ひ、知、ら、る、と、柳、出、槍、拔、撥  
 難、採、立、松、秀、丸、右、川、山、本、清、に、横、當、ま、れ、バ、甚、助、ハ、ま、さ、山、本、二、左、清、門、は、怒





森力丸 同房力  
 高橋虎若 偕  
 大不烈戦  
 撃死す

豊臣五五編卷之七

十四



豊臣五五編卷之七

廿三



探して、毛豹を懸け、暴多像一湯殿一益を渡、烟火を發して、我ひしが、湯殿も小倉も脱疲を、数ヶ所は、深残を、負する、けし、う、抄刀も、鎧りて、自由を、得、た、そ、こ、代、山、本、右、門、か、手、法、く、禰、投、鎧、の、烈、勢、ら、し、ろ、小、倉、之、其、浦、大、内、義、一、喝、叫、人、で、擲、激、と、鎧、の、銳、此、鎧、結、て、湯、淺、か、胸、を、横、さ、ぬ、小、倉、子、數、子、外、を、八、九、寸、餘、り、小、倉、が、腹、肚、へ、益、烟、た、せ、く、擲、投、さ、り、甚、助、の、これ、も、た、り、り、以、て、む、く、鎧、鎧、を、死、さ、り、れ、れ、も、松、丸、の、猶、怯、ま、り、鎧、の、銳、尖、を、弓、手、に、擲、之、背、方、に、破、折、て、其、浦、か、面、上、へ、擲、着、ま、り、目的、の、外、ま、り、眉、向、小、倉、に、鮮、血、眼、を、腫、ま、り、一、度、返、し、て、松、丸、其、浦、を、別、人、と、揚、る、太、刀、其、際、に、還、く、背、方、を、る、山、本、右、門、一、突、突、鎧、那、際、に、速、く、て、小、倉、が、肩、腰、禰、貫、ぬ、れ、て、若、と、い、ふ、聲、の、そ、の、一、て、死、ぶ、り、り、る、遠、三、勇、士、殿、を、な、れ、を、門、前、に、催、り、遮、り、ぬ、れ、咱、他、先、を、争、う、く、一、度、小、倉、内、へ、孔、投、る、遠、响、森、蘭、丸、一、軍、し

て、大、臣、の、御、傍、小、倉、虚、在、た、り、し、が、進、之、寺、内、へ、鎧、投、を、り、て、十、文、字、の、鎧、を、銳、長、に、掲、げ、雷、喝、一、叫、擲、出、ま、り、鎧、子、懐、い、く、房、丸、カ、丸、全、ト、く、鎧、を、心、當、小、倉、一、瞬、を、せ、く、蘭、丸、が、左、右、小、倉、人、で、胸、を、枝、け、陽、叫、派、て、我、小、倉、其、蘭、丸、城、擊、ま、り、之、右、大、臣、の、指、揮、小、倉、ひ、金、藏、殺、入、薄、田、與、兵、衛、大、塚、孫、惣、同、又、希、三、尾、平、助、魚、住、庄、七、小、川、愛、平、落、合、小、倉、部、山、田、孫、兵、衛、入、小、川、孫、次、郎、殿、身、解、脱、小、倉、を、い、へ、と、も、方、僅、蘭、丸、に、懸、ま、り、れ、流、る、鮮、血、を、拭、い、ま、り、た、る、抄、刀、を、踏、踏、し、撮、り、り、ト、一、跪、却、く、雷、聲、風、の、沙、を、奏、り、流、る、霧、ひ、影、を、返、接、ま、り、バ、明、智、方、に、も、曰、王、天、祖、馬、守、同、又、去、清、和、本、八、之、邊、村、上、和、泉、之、業、木、三、針、頭、三、宅、武、郎、進、士、六、郎、を、吏、を、報、う、て、殺、卒、難、ま、り、ぬ、る、ま、り、輪、は、方、に、改、換、人、と、喚、叫、人、で、接、所、行、ハ、機、の、岩、根、を、り、河、波、の、途、を、退、く、返、く、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、進、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、蘭、丸、が、く、飛、周、り、て、弱、き、自、方、を、幫、投、出、し、強



此自勢を懸して進退出波さるるに時勢が急を捜ふ小齋しく集散  
 離合發するまや。猿猴が菓を捕ふ同しく勇と水とのあつてけを竭して  
 只頼大長の所帯を志すも窺うがんと退つ返つて我を。四三又も清治  
 と視る。原某恨の海に蘭丸息の根止いさく。船は斜に抛期よ  
 流投らんことらること。カ丸とよのこせま。と大をカ打振。又も清小殿て蒐  
 ると呀小酌あり。童倫面と。墮雷の流く一喝叫び。突出餘の飛電より。福  
 疾うりたる猛勢より。海のカ丸交争難て危く見ゆる。我身はカ丸を敵せ  
 てまぐ。船とらと。借小喫い。突蒐る。然ども。猛健力の又も清政實ますく  
 激けて。兩個を射撃し。捨方一。右突左敵。小隙間あり。勇を奮ふと。  
 カ丸をら。一發矢と。糊僵ひ。それ着るより。房丸。血眼ふ。つて。懐突さ  
 と。船本村と受取て。終小房丸を撃投より。那方小。最蘭丸。二個は。身ま

のあつて。我死するを侍親して。信長の所帯をさるるも。去らば。進退の款  
 と。頑強は。難備。要時の主君を安ん。どまらるる。遠路小。織田家の勇士達。張  
 少く我死して。存命さる。ハ蘭丸と。始り。十人。人。のわり。新兵三十餘人。長我  
 守護して。在るとい。とも。渾身。總て。兼。深。流る。血。髓。に。軟。けて。渴。を。後。こ  
 咽。を。潤。さ。不。見。ハ。獲。に。海。底。小。あり。とい。阿。修。羅。の。衝。止。小。髣。髴。たり

右大長所帯官蘭丸我死馬安田録切

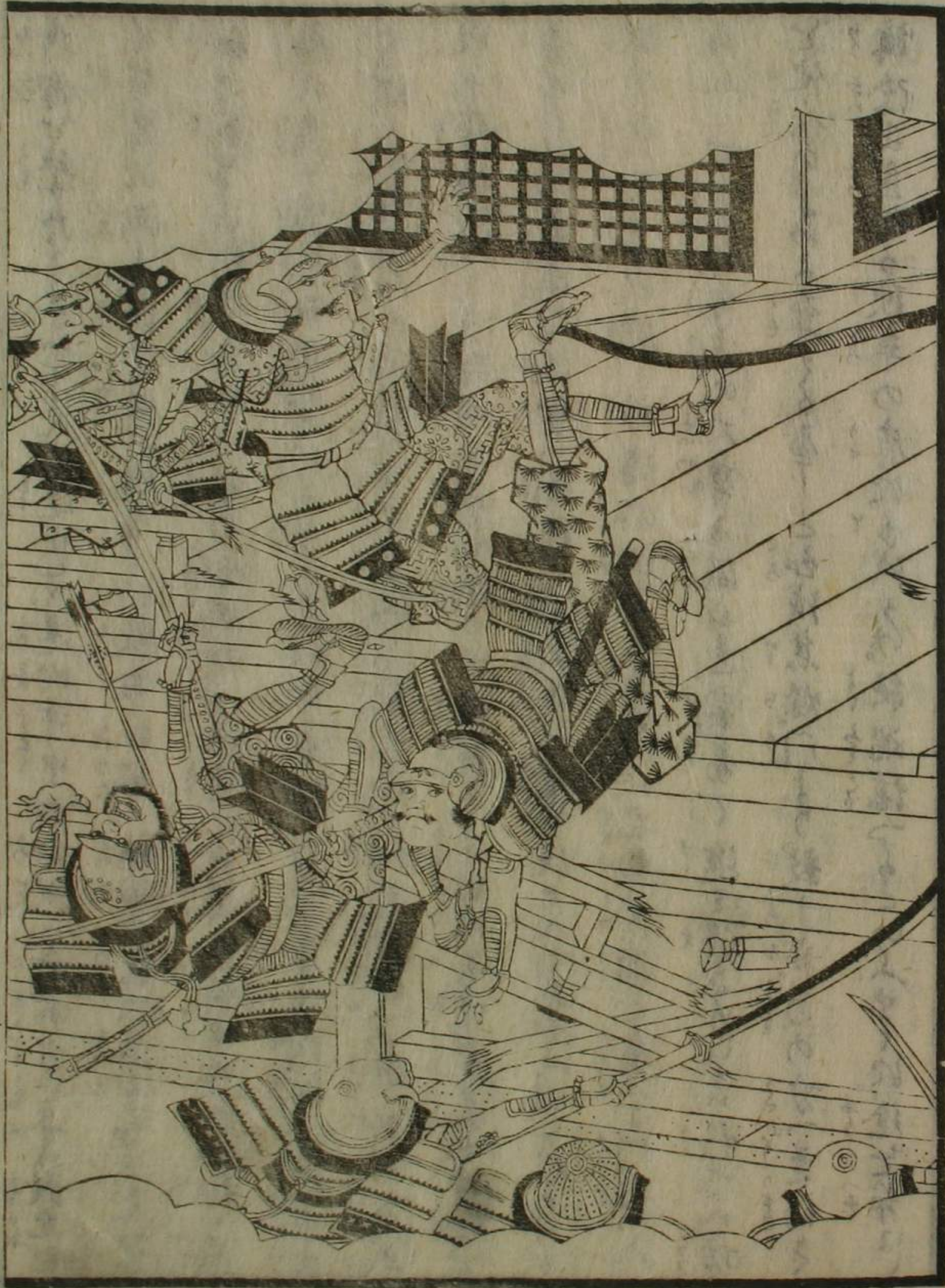
大将小。み。才。十。過。あり。其。み。才。と。備。る。の。ハ。智。仁。倍。勇。忠。是。なり。十。過。と  
 備。ハ。二。小。勇。あり。て。死。を。獲。る。者。二。小。急。あり。て。を。速。る。三。に。貪。て。利。我  
 好。む。よ。の。四。小。仁。あ。ま。さ。とも。殺。さ。不。忍。び。ざる。亦。の。み。智。あり。て。怯。れ。ざる  
 者。六。小。謀。略。あり。て。意。緩。さ。の。七。に。別。殺。して。自ら。用。ゆる。之。の。八。小。ハ  
 懶。惰。さ。して。他。小。任。さ。る。の。九。小。自己。が。能。を。恃。て。他人。を。用。ひ。ざる。者。十。に







右大臣の  
猛憤弓矢を  
執り村井木村を  
激殺し





所首と撃たぐまらうんと進出が。遠州寺中の合戦の所所方七分の敵死し  
 て。首係に瀾之法の庭に。時あふに敷布紅丹の。龍田の秋に落葉あふ。地  
 獄の名ある紅蓮子似川。氷の劔満たる。小空の英界の最中を。執氣  
 龍の蒸が偉く。ち刀風の外の吹せ。殺氣凜々たる。所西方に勇士  
 高橋虎若三尺九寸の太刀赤振り。厨口より。跳り出群る進兵を。之既  
 既子。投落流。こ破用之。勇を振つて。傑戦を。安田地。清虎若。投初を  
 着る。い。偏。後堂へ。擲投て。右大臣に。鎧を。注ぐ。人。か。これ。目も  
 獄。正。文字に。進。諸。亦。山。本。之。方。清。門。の。安。田。其。浦。と。齊。一。門。内。入  
 らんと。せ。う。と。自。方。の。大。勢。を。隔。ら。是。容易。く。進。得。ざ。り。し。功。新。て。功  
 と。他。人。の。よ。ま。を。奪。る。身。と。を。成。焦。門。より。数。十。歩。あ。の。方。へ。走。り。く  
 悔。隙。よ。ま。た。る。秋。卒。の。肩。に。成。り。け。独。踏。堪。へ。と。い。く。中。に。鎧。を。節。は

鳴。喚。と。身。を。躍。ら。せ。て。高。橋。一。飄。下。と。逃。げ。被。た。る。糧。一。系。新。し。小。橋。威。大  
 袖。小。袖。並。波。の。草。擲。翻。と。と。翻。轉。に。七。蝶。の。落。花。ふ。程。ふ。偉。く。鳥。の。飛。雲  
 に。迷。ふ。似。て。生。死。を。争。ふ。我。場。不。も。呼。聲。く。り。と。英。憤。の。声。小。雲。時。止  
 ざ。り。々。又。子。山。本。の。塔。より。跳。却。こ。も。全。く。信。長。公。に。池。合。せ。んと。擲。投  
 る。面。前。高。橋。虎。若。死。横。を。敷。く。我。を。さ。る。に。撲。他。と。池。合。進。は。稱。号。と。新。結  
 と。雙。進。復。退。虚。實。の。臂。面。を。擊。つ。バ。丁。と。低。止。横。を。獲。ま。る。高。橋。を。さ。る  
 可。化。は。時。轉。せ。し。剛。勇。り。々。虎。若。丸。も。數。刻。の。軍。不。身。も。怪。果。殘。騎  
 負。ぬ。ま。進。退。も。や。自由。あ。る。に。刻。や。山。本。三。太。守。の。煤。氣。の。勇。力。に。潮。起  
 ら。ま。進。退。も。懸。る。に。擊。つ。ま。る。遠。响。猶。も。信。長。公。の。調。撥。際。を。ま。る。ま。る。ひ  
 弁。腕。法。く。弓。精。烈。く。を。横。を。從。に。射。つ。ふ。不。安。田。作。を。清。陰。り。揚。之。臣  
 目的。に。死。來。る。法。進。射。す。と。信。長。公。懸。地。射。す。と。蓋。額。を。依。る。清。陰。よ。て









豊臣巴五番

阿能の居  
英戦  
殿頻  
す



豊臣巴五番 卷之七

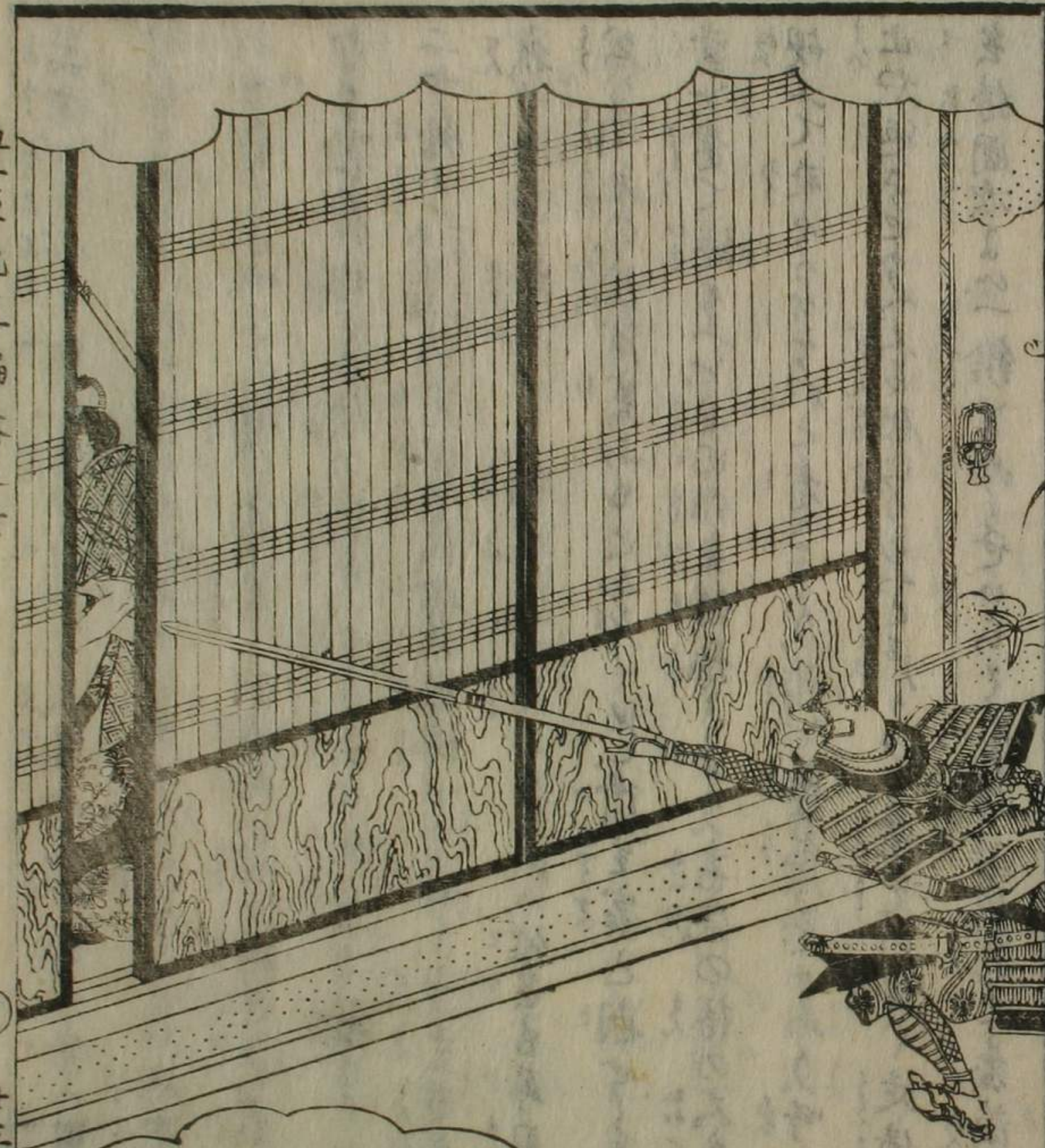
三十一



刀心當に搦へ。洞庭より逃り出。地も涙尻を踏諭く。從横に得も難廻る。  
 昭智の去士倣ふ。是成着て。この藪らした女武者。喧撃提人と群蒐る  
 と。改の紋羅ると齊しく。又破竹。旋風。竜骨車。大波。小濤。激若。洞極  
 外し。藪落し。藪刀の刃れ。効くだけ。肩後。腕。臑。嫌も。あ。當り。成。う。と  
 挿さ。た。れ。た。瞬。瞬。際。に。十。四。又。踏。を。天。足。地。頭。も。乳。殺。を。その。わ。り。多。勢。に。疾  
 は。け。た。れ。た。當。の。秋。冬。あ。ら。の。種。て。門。外。へ。親。と。群。蒐。る。成。猶。も。進。で。烈。心。我  
 を。落。す。と。こ。ろ。に。山。中。三。た。坊。つ。秀。盛。信。長。公。を。那。様。小。着。あ。け。嬉。し。や。喧  
 手に。撃。ま。わ。ら。せ。ん。と。電。の。如。く。走。り。を。遣。中。と。の。と。阿。能。の。局。匹。夫。面  
 待。と。呼。蒐。つ。も。韓。竹。破。の。藪。着。れ。の。飄。然。と。避。て。落。来。る。茫。頭。を。鎧。お。て  
 一。臂。へ。着。入。り。利。脚。拳。と。見。え。たり。しが。聲。募。地。築。せ。し。沈。僵。を。成。阿。能  
 も。驟。さ。び。短。刀。脱。撃。獲。手。の。當。を。と。勝。人。と。ま。る。妻。より。身。能。さ。さ。る。所。つ。

四五尺。多。く。跳。揚。れ。た。阿。能。ハ。勝。人。と。ま。る。腕。子。刺。り。力。の。用。た。る。よ。や。空地。を  
 勝。て。腕。子。に。倒。る。と。あ。ろ。と。山。中。と。さ。び。鎧。と。送。手。子。背。より。危。尾。へ。偶  
 殺。と。突。貫。れ。若。と。い。聲。を。な。ぐ。り。あ。く。骨。に。け。し。は。頭。さ。り。たる。備。右。大。信  
 長。公。ハ。長。裁。と。ろ。く。秋。冬。の。様。より。よ。一。濟。查。る。成。敲。墜。し。突。墜。し。た。お  
 掘。を。石。子。連。登。へ。突。声。暖。む。凍。と。し。眼。光。眼。ま。け。瞬。と。う。て。面。貌。の。情。色。溢  
 る。如。く。獅子。を。奮。迅。の。猛。威。を。頭。に。し。猛。火。の。わ。さ。た。の。暴。風。に。卷。る。と。の。と  
 着。て。や。れ。ば。黒。雲。の。疾。雨。を。纏。る。より。烈。しく。拗。む。わ。ど。小。棚。や。ど。小。洞。揺。廻。る  
 欄。も。激。塵。に。烈。撃。て。整。く。棘。く。誠。は。是。や。扶。素。か。る。六。十。餘。箇。の。我。國。に。そ  
 の。天。が。下。小。冠。と。る。若。の。運。傾。々。る。最。終。の。決。裁。那。や。と。な。り。凍。熱。く。刺  
 る。小。泣。く。挿。さ。り。あ。り。て。右。の。腕。に。鎧。痕。を。二。箇。不。ま。せ。負。せ。り。し。袖。も。裳  
 毛。血。も。浸。り。白。衣。変。り。て。紅。の。斑。染。と。ぞ。着。々。る。成。蘭。丸。明。智。を。勇。士。堂。





安田作兵衛  
國次  
信長公と  
刺さる  
まゝ



其浦右門山本殿と我ひ在るがく大音ふく。千斤の弩ハ龍氣のこゝろ  
 せどとらや。そのけり所とありさせむ。防ぎむ六物候。快く入  
 りぬと。呼より喚より急ぐ。遠向ふ敵と追拵。君今生害く身  
 かりふ。そ成坊も敵の奴軍。一卒才士も殿上へ。揚すもその味云れやと。  
 二十餘弓。一弓も成の書院只成機。機短俤するが如く。千乞可奇寸隙なく。防  
 我すること極大より。捕逮して供さる。他も耳目を獲せり。佐長  
 公ハ蘭丸の棟成実もとあがし。所生害と期さる。色なるもや。後  
 堂と當て退る。安田作を湯孫とより。書院の機の大戸の隙。君成  
 候て在る。それと着るより。蹟を逃蒐。そまら。呼都候。所生  
 止や。返させ。大長殿より。声うけて。電光の像く走侍。そは安田作  
 長。備圖次より。一鎧す。ぬきいら。んと。叫ぶ。成候て。森蘭丸や。これ作ま

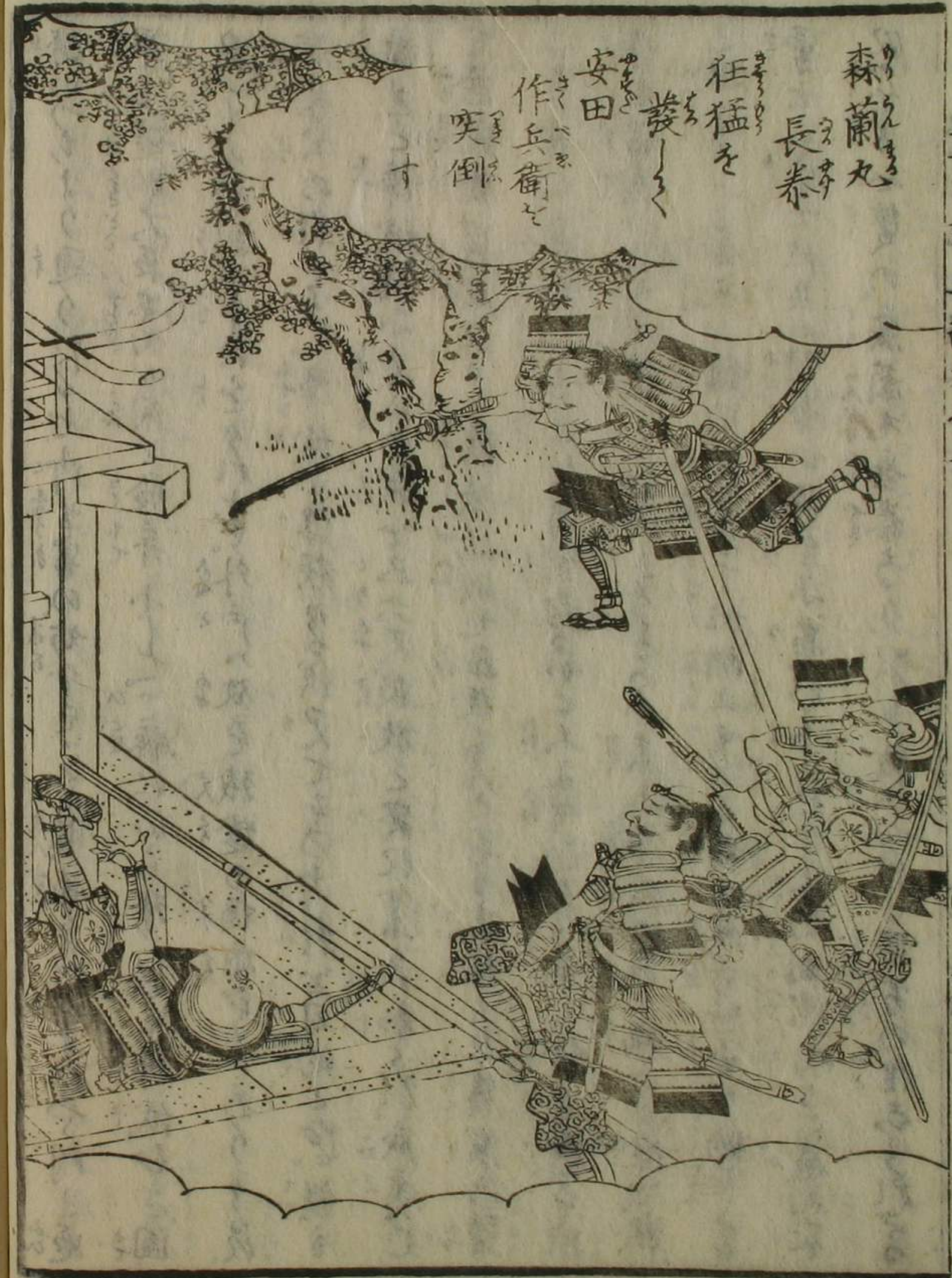
清いつちより通りわたる。所生害の妨を。こを願懐。かれ止まれ。や。何と追  
 畢る。遠响大長安田。何と候。弁小。一廳に。いら。珍。は。障紙。む。圖  
 白。一。が。時。刻。ハ。年。に。を。た。れ。ども。外。戸。ハ。放。を。残。燈。の。猶。猶。む。て。あり。たる。に。  
 信長公の影を。し。障紙。は。浮。鏡。なる。成。入。て。その。所。候。を。目的。と。也。鉄。も  
 徹。と。障。紙。隔。小。丈。ハ。の。鉄。を。不。六。尺。叙。放。と。突。に。か。不。久。知。り。底。至。り。し  
 て。陰。銃。動。け。成。たり。と。障。紙。破。破。て。狂。投。ら。んと。する。有。願。す。り。霹。靂。の。墜  
 る。ま。り。子。森。蘭。丸。長。泰。を。着。然。たる。か。と。大。叫。び。奔。蒐。て。鏡。突。破。り。成。  
 作。を。清。國。次。足。踏。整。し。玉。得。たり。と。ふ。采。小。障。紙。の。内。一。鎧。なる。陰。銃。を。親  
 と。扱。返。して。蘭。丸。鎧。の。銃。尖。を。丁。地。刺。止。り。と。件。は。我。叫。を。合。せ。鎧。候。なる  
 勇士。と。勇士。他。兵。ハ。明。智。の。隊。中。小。名。代。も。く。せ。安。田。國。次。自。其。ハ。鐵。國。家  
 以。志。勇。を。雙。の。森。蘭。丸。長。泰。より。つ。き。成。へ。づ。れ。と。傍。方。の。程。あ。ら。れ。ざる





豊臣五郎右衛門

十五



森蘭丸  
長恭  
狂猛を  
護  
安田  
作兵衛  
突倒

豊臣言五郎

十六



歌突烈刺。蘭丸當日の赤梅の地。小袴の丸と紅と白と。小深敷したる  
 袴を着し。鈍三尺棟柄の二間。十文字の鍔推棄たり。享年積て廿二歳。系那  
 佐か井小もある。中下さ。美人の聞え最印し。安田作多清。國次ハ孫て。期した  
 る。軍場おれば。致具。桐さ。黒鞆の胸丸。小病の二隠を白く。飯蔵せし。大袖小  
 袖を結び着。紅糸の鞆を。金たる。焼と被。打刀。戒刀。三。敵。刺刀。背具。たう  
 へ。小丈八の。裁あつ。操て。我々。相ハ。籠。や。何。人。虎。子。や。あ。う。人。中。に。純。て。蘭。丸  
 ち。方。僅。同。系。小。國。次。が。君。を。刺。し。る。奮。恨。の。骨。小。激。し。七。惘。念。な。れ。ば。忠。實。お  
 こ。小。強。烈。し。て。や。え。う。安。田。と。浩。安。と。さ。と。大。敵。も。崩。る。く。く。り。に。怒。喝。し。死。を。畏  
 せ。ざる。操。は。る。海。の。國。次。對。陣。し。し。中。大。は。威。恐。を。し。軍。に。懸。係。し。る。地。者  
 の。作。多。清。よ。く。蘭。丸。成。芳。し。て。敵。人。を。之。の。と。事。り。つ。も。右。ハ。流。し。丸。一。拵。ひ  
 す。こ。し。進。ま。て。お。お。の。小。退。さ。漸。次。に。は。椽。頼。ま。せ。跟。退。ま。し。て。適。さ。り。け。成

蘭丸焦燥て。臂力に。信せ。唯一。突。以。と。喝。と。叫。ぶ。を。安。田。を。あ。る。方。得。敵。相。不。大。地  
 へ。飄。風。と。詭。人。と。して。詭。過。て。方。君。を。置。累。た。る。椽。頼。ま。せ。跟。退。ま。し。て。適。さ。り。け。成  
 たり。蘭丸。海。より。と。擧。榎。は。復。足。さ。ん。け。安。田。を。脱。せ。や。お。れ。國。次。か。の。是。指  
 家の。身。法。を。り。く。恐。ま。お。わ。く。も。大。匠。家。を。裁。せ。ん。と。さ。る。大。運。後。天。野。お。を  
 ひ。志。門。さ。り。か。と。十。文。字。に。陰。を。推。拵。せ。し。お。が。ま。げ。さ。小。骨。肉。も。徹。座。ふ。あ。れ  
 と。金。割。刀。金。輪。陰。の。底。ま。で。も。徹。ま。よ。か。し。と。擧。下。せ。重。なる。草。摺。突。徹  
 して。野。股。へ。は。り。く。當。り。十。文。字。の。又。の。又。に。く。松。成。殺。風。と。編。次。た。ま。八。骨  
 骨。中。を。穿。つ。れ。餘。ま。る。鈍。尖。磚。は。碓。止。と。當。り。く。大。を。放。て。り。尋。常。の。穿。る  
 ら。ん。魂。も。消。盡。し。り。小。口。天。が。中。の。安。田。作。多。清。を。あ。り。と。怯。ま。せ。蘭。丸。が。擧。脚  
 たる。鎧。の。棟。派。を。あ。り。か。と。提。つ。く。身。を。操。け。せ。よ。う。り。引。を。な。の。ま。り。よ。引。起。さ。れ  
 け。る。刀。を。割。り。復。し。難。し。小。新。拵。へ。あ。ま。し。と。共。に。蘭。丸。が。一。雙。の。脚。成



新編より。一刀三限不破墜され。悲哀しや。忠憤激烈の英雄もこれなる  
 ぞかき立持るべき。朽する大樹の倒る如く。天相不控と稱ぶるも我曰く天  
 又去誘蒐濟て。惜や首試搔頑より。  
は後安田作左衛門三郎を以て言ふ事なり。在たりしが秀吉天下に主する成りて世成をこれ  
名をとりて大野添左衛門と改名し九死ありたれ。備前大將信長公を。後堂幽  
ども面不獲物の養育せしより自ら首を以て死せしより。と容るせむ。四方の閻門も火を放ちて。そのあふ投るひ。所生害成を  
 まりくける。逝年四十九歳にておとろる。嗚呼悲哉。天正十年六月二日  
 世も如何なる悪凶日ぞや。過昔天文の初。  
信長公の天文二年より。今天正十  
甲午に從せしるふ  
 年六月まで。海内不縦横しむ。威を公の随ふ富ふ。天下此崩礼  
 と頑強め。庶民は塗炭の中に救ひふ。哉七道の教團も。その英名を聽と  
 ね。天魔鬼神の縁くに。怨畏。証ざる。半の降る。率多し。所身は三位  
 右大臣に昇進し。大業既不成。然るを。運城光秀がた。め小弒せられ

多かり。あそ朽憾く。いもあろ。あり。所傍ふ。在合を。士。應。後。倭。所。尊  
 骸。小。茶。毗。具。を。蔽。掩。も。あ。ろ。せ。四。方。より。大。火。く。け。て。其。傍。に。座。を。連。珠。勝。十  
 文字に。芟。剗。て。金。齊。一。小。火。に。焼。投。り。殉。死。し。て。哀。哭。あり。た。れ。遠。胸。稱  
 も。所。所。方。小。く。毆。躑。され。る。士。輩。九。十。餘。人。遠。場。那。庭。に。踏。上。り。て。鱗。身。小  
 ありて。若。我。せ。し。か。大。書。院。々。所。深。不。透。大。敵。と。燃。熾。り。天。衢。を。伸。る。所  
 此。見。ゆ。き。を。別。才。の。主。君。の。所。生。害。ま。り。と。察。し。ま。ぬ。と。せ。各。く。敵。と。逆  
 刺。一。個。も。残。ら。ば。我。死。して。忠。義。不。其。名。成。轟。せ。し。嘆。を。ぶ。く。賞。す。處。し

繪本豊臣勲功記五編卷之七終



